

宮崎銀行と業務提携を開始

株式会社宮崎銀行とJ-PAOは、農業分野への取り組みをさらに強化するために、7月2日に「農業経営発展の支援活動に関する協定書」を締結しました。当機構が地方銀行と業務提携を結ぶのは宮崎銀行が初めてです。業務提携と併せて7月から宮崎銀行の職員を受け入れ、当機構が有する農業におけるノウハウを共有し、さらに相互の連携を一層強化します。

*プレスリリースがJ-PAOホームページに掲載されています。

アグリフード EXPO 東京が開催されます

8月2日(木)～3日(金)にJ-PAOが協賛している第7回アグリフードEXPO東京2012が開催されます(主催:日本政策金融公庫)。

J-PAOでは、開催前日の8月1日(水)にEXPO出展者および関係者を対象に「商談会スキルアップセミナー 第11回 実践! 商談会ビジネス」を開催します。

また、会期中には、「販売戦略スペシャリスト」の委嘱を受けている新潟県からの出展者と運営会員である日本ブランド農業事業協同組合への出展サポートも併せ行います。

*商談会スキルアップセミナーの内容は、J-PAOホームページのバナーをクリック

専門部会の動き (7月分)

【東北農業復興プラン検討部会】

今回は、南相馬市訪問(7/21)の報告を事務局より行い、これに関する意見交換を行いました。南相馬の状況については、「昨年度収穫米がかなり低い金額でしか売れない」「稲作は今年は見合わせ、試験栽培を行うのみ」「農業者の中には、あきらめて南相馬を離れる者もいる」などの報告をしました。次回以降、この地域に対して、具体的な提案が可能かどうか検討を行う予定です。

【輸出】

トライアルをするために、輸出を希望する会員の関連会社との進行状況の報告を行いました。また、このような輸出の取り組みにメンバー各社からの希望を取り入れることとし、随時事務局で希望を受け付けることとしました。

【人材育成①】

今回は、事務局に相談が寄せられた、石川県庁で検討中の「能登牛生産者育成プロジェクト」について情報提供、意見交換を行いました。このプロジェクトは、能登牛(黒毛和牛)の年間1,000頭生産体制を実現するため、就農希望者の掘り起こし、後継者育成を図ろうというものです。

想定されるさまざまな問題点等について、活発な意見が出され、その内容を同県庁あて報告しました。

【人材育成②】

前回から引き続き、J-PAO主催セミナーとトップマネジメントセミナーについて、事務局のたたき台をもとに意見交換を行いました。

他社等で行われている同テーマのセミナー内容等との比較や、J-PAOの強みを生かしたものにするにはどうしたらよいかなどを協議した結果、農業者に限定せず、農業者を支援する人向けのカリキュラムを作る方向になりました。また、トップマネジメントセミナーについては、次回より具体的に検討することとしました。

大分県農業ビジネススクール始まる

J-PAOは、昨年度に引き続き、大分県から「農業ビジネススクール」の委託を受け、カリキュラム企画や講師の選定、派遣を行っています。

そのビジネススクールが、7月20日(金)に県内の農業者40名が出席し、開講しました。

今後、マネジメント能力向上と経営拡大実行プランの作成に向けて、来年2月まで、講義、演習、先進事例調査(自己研修)を行います。

農業経営アドバイザー研修・試験開催

J-PAOは6/25(月)～6/29(金)に第15回農業経営アドバイザー研修・試験を開催し、357名が参加しました(於:クロスウェブ府中(東京都府中市))。

研修では、農業簿記・税務、農業経営診断、農業労務管理、農地、農業マーケティング、農業問題を行い、6/29には試験がありました。

この試験に合格した方は、8月9日(木)に面接試験を行い、それに合格すると、「日本政策

金融公庫 農業経営アドバイザー試験合格者」の称が付与されます。

トップマネジメントセミナーの概要をHPに掲載

本年2月に開催しました「第4回トップマネジメントセミナーの開催概要」をホームページに掲載しました。

来年2月にも「第5回トップマネジメントセミナー」を都内で開催する予定です。

主な活動 (6/30～7/31)

- 7/2 上越市農産物等販売促進セミナー (神崎、高田)
- 7/3 新潟県農業担い手サポートセンター販売力強化研修会 (神崎)
- 7/4 パソナ農業ビジネススクール (神崎)
- 7/10 第61回企画運営委員会
- 7/18 パソナ農業ビジネススクール (神崎)
- 7/20 大分県農業ビジネススクール (都築運営会員)

宮崎銀行のご紹介

7月2日に地方銀行との初めての業務提携を締結し、これに伴い、7月9日よりJ-PAO事務局に宮崎銀行から1名(岩下真之)職員を受け入れました。

今回は、その岩下職員より、抱負と宮崎銀行の紹介を掲載します。

■宮崎銀行との業務提携の内容

平成24年7月9日よりJ-PAOコンサルタントとして業務に従事しております、株式会社宮崎銀行より出向して参りました岩下と申します。平成24年7月2日、株式会社宮崎銀行は特定非営利活動法人日本プロ農業総合支援機構と地方銀行としては初となる業務提携を行いました。業務提携内容と致しましては以下5点です。

- ①農業経営者の事業化支援
- ②農業経営者の販売支援
- ③農業経営者の人材育成
- ④農業経営の改善に関する情報提供
- ⑤農業経営者へのアドバイスを行う人材の育成

上記業務提携の一環として、同じく地方銀行初となる行員派遣により、現在J-PAOの業務に携わっているところでございます。

■宮崎銀行の農業に関する取組み

宮崎銀行では現在、営業統括部内に『ネオアグリ

チーム』として、3名の行員を常置、『ネオ・アグリプロジェクト』と題して、食に関わる一連の産業に対して、ファイナンスソリューションを提供していくことで、地域産業全体の活性化に波及させていこうという取組みを行っております。

最近の主な取組みをご紹介します。

○H21年7月～

宮崎ネオアグリファンドの創設

地域貢献の一環として、宮崎銀行、地元金融機関、地元農業関連業種、宮銀ベンチャーキャピタル等が出資を行い、総額5億5千万円のファンドを創設。H23年9月末現在投資実績は、6件の3億7千万円となっています。

○H22年1月～

みやざき食と農の商談会2010

宮崎銀行、宮崎県他2社の主催にて、県内企業約148社の出店、全国から約2000名のバイヤーが集い行われた商談会。当日成約187件の実績。

○H24年3月～台湾商談会

宮崎銀行、みやざき観光コンベンション協会主催のもと、台北市において食品関連取引企業の販路拡大を目的とした台湾側バイヤーとの個別商談会を実施。

また、ファイナンスの面においては、農畜産業者・食品製造業者向けの宮崎銀行独自の融資商品『豊年万作』『豊穰祈願(日本政策金融公庫信用補完付)』に加え、『農業近代化資金』『家畜疾病経営維持資金』『農業経営基盤強化基金(スーパーL資金)』の受付も可能となっており、様々な資金ニーズにお応えできるようになっております。

■抱負

出向期間1年という短い時間ではありますが、これからコンサルタントとして従事する中で、J-PAOが有する農業におけるノウハウを取り入れると共に、地方銀行ならではのリレーションシップバンキング機能をより一層強化することで、農業経営者が抱える資金調達、農畜産物販売、六次産業化等の課題解決に向けたソリューションの提供を行い、宮崎の基幹産業である農業発展に貢献できるよう尽力致します。

往復書簡

今回は、小川源太氏（青森県、黄金崎農場）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡（2回目）です。

拝啓 高木 勇樹様

ご返信ありがとうございます。前回の手紙にて書きました「就職先の選択肢として農業が選ばれにくい理由」について掘り下げていきたいと思えます。まず、農業のイメージについて私が子供の頃から漠然と抱いていた、いわゆる「3K」であり、低収入・休日もロクに取れないといった負のイメージが一般的だと思いますし、それほど間違ってもいいと思います。それなのに、さあ就職をしようという学生に対して胸を張って「うちに来てください」と言えるのだろうか、今回を機に再度考えました。先述の負のイメージを払拭すればいいのではないだろうか、などと安易な考えも浮びましたが、それができればとくに先人がやっているだろうと思えました。具体的な策というものはこれから考えたい課題だと思えますが、前回のお手紙に書きました自分が就農しようとした時の感覚から方向性が少し見えてくるような気がします。一般的に社会的地位の高いとされる（？）職種に人気があるようですが、それらと農業を同じものさしで測ることなど到底できないし、働く人が求めるものも、物質的な豊かさや精神的な豊かさという必ずしもイコールにはなり得ない感覚であるならば他と比較すること自体がとても無意味に感じてきました。都市ではお金があれば何でも出来るといっても、いけば、私には虚無にも感じますし、農村には、何もないという人もいれば、私にはお金がなくても何でもできるのが農村だと感じます。どちらが良いとか悪いとかではなく、世間には一様ではない価値観があり、それを選択してどう感じるかも就職する人次

第なのだと思えます。教育の場においても精神的な豊かさを育めるよう、身近なところから取り組んでいきたいと考えています。それと会社組織としての農業で、休日くらいは多少取れるなどといった受け皿としての充実をさせていくことで、自ずと「類は友を呼ぶ」となっていくのだと思えます。なによりも非農家であるということとは農地や設備がないからこそ土地に縛られず、技術さえあればどこでも存分に力を発揮できるといった、マイナスイメージが逆にならぬことだと思えます。今回の内容については、今後も考え続ける課題としていくことで自分に当てはめて自問自答していきたいです。

敬具

小川 源太（おがわ げんた）

一九八一年北海道札幌市生まれ
株式会社黄金崎農場 葉物野菜担当
弘前大学卒業後北海道の個人農家にて従業員として畑作の知識等を学んだ後、現農場に就職
北海道に劣らない素材をたくさん持つ青森の魅力
を全国に発信していきたい。
昨年一児の父親となったが、育児と野菜の育苗・圃場管理を照らし合わせている日々。



上段：農場での結婚式

拜復 小川 源太様

大事なものは、選ばれにくい理由ではなく、貴兄ご自身が就農しようと決めた時の感覚から見えてくる方向性だと思えます。

社会的地位の高いとされる職種とは何でしょうか。昨今のように人生観、働き方を含め価値観が多様になった社会では、百人百様としか言えないのではないのでしょうか。

でも、少なくとも私流のものさしでは、自らの創意工夫努力が活かせる、失敗も成功も自己責任で生きる、その成果が社会に役立つ、公共性が高いものは、結果的に高い社会的地位を獲得するのではないのでしょうか。

農業は国民に食料を供給する重要なものです。だから例えば私有財産である農地の整備に高率補助（国民の税投入）がなされ、固定資産税も極めて低いのです。食料の安定供給という公共的役割が背景にあるからと考えるとよいでしょう。農業をする人たちが「だから保護されるのは当たり前」という意識を持つていないでしょうか。もし、農業の社会的地位が低いとすれば、3Kではなく、この意識に国民・消費者が共感しないからではないかと思えます。

积淀に説法ですが、農業も産業です。経営として持続し、そこから生活に最低限必要な所得が得られなければ、現実問題として農業を職業として選択し、これを続けることは難しいでしょう。

憲法で保障されている職業選択の自由は、正に貴兄の言われる多様な価値観を生きるすべとして選

択できる権利と違ってよいでしょう。経済的価値、精神的価値等々またその組み合わせを、自ら選択した職業の中で、創意工夫努力、成功・失敗の繰り返しを通じて自らの価値として実現していく。これが貴兄が今漠然と感じておられる方向性ではないのでしょうか。

私は、貴兄のような春秋に富む方が何かを創り出すための捨て石となる覚悟で、経験・知識を伝える活動を、生涯現役の気概で、命生かされている限りやり続けます。どうぞ感性を磨き、ものさしを豊かにしながら、方向性を確実な私たちにしていくください。必ず出来ます。

敬具

平成二十四年七月吉日

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 農林中金総合研究所理事長

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

